






## (4)啓発活動計画

適正な自転車利用を促進するために、既存の施策を継続及び見直しながら、年代や属性にあわせたわかりやすい啓発となる施策メニューを立案する。また、環境にやさしい交通手段へ市民一人一人の「移動」が変化するような情報提供などの施策メニューを立案する。さらに、啓発活動の実施にあたっては、自転車利用のメリットを同時に伝えられるよう配慮する。

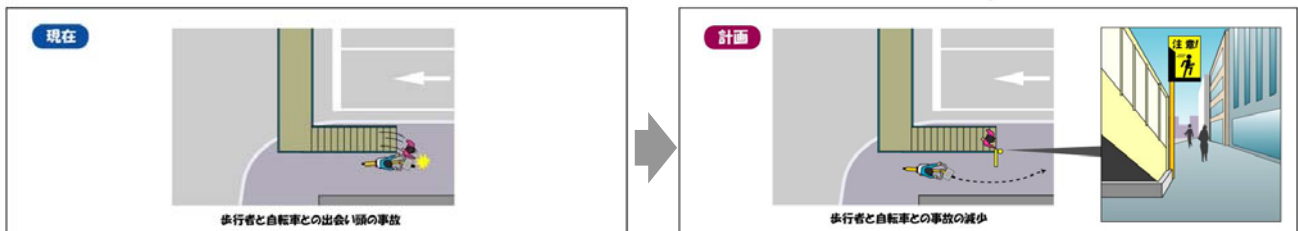
### ①注意喚起看板の設置

考え方：注意喚起看板を設置することで、自転車利用マナーの定着、事故の削減を図る。

対象者	<input type="checkbox"/> 学生   <input type="checkbox"/> 高齢者   <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車   歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦   <input type="checkbox"/> 一般市民   <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車   自動車・バス
実施内容	<p>○交通ルール標識・看板の設置          通行位置、通行禁止、駐輪場所、駐輪禁止、一時停止、歩行者優先など、自転車走行のルールを表示した標識や看板を自転車利用者に見えやすい位置に設置し、ルールに対する自覚を高めてもらう。</p>  <p>西蒲区で選定されたネットワークなどは、幅員が狭く走行空間を明確に明示できないことから、このような交通ルール標識の設置やイメージハンプ等の整備により、歩行者、自転車、自動車それぞれが、相手に配慮した通行を行うよう啓発する。</p> <p>○啓発指導ボランティアによる周知          啓発指導ボランティアの活動を通じて、標識・看板を使った呼びかけや、ルールの説明などを行い、ルールの周知と徹底を行う。</p> <p>●安全に関する注意喚起の看板の設置          脇道からの飛び出しなど、歩行者と自転車の接触が考えられる場所に対して、注意喚起する看板を設置し、危険な場所であること認識して通行してもらう。</p>  <p>中央区にてネットワークに選定されている柵谷小路に関しては、歩行者が極端に多い区間であり、歩行者の安全を守るため、自転車をおして通行するか、徐行することが望ましい。または、並行する路線へ通行経路を変更してもらうことが望ましい。そこで、速度をあげて走りしようとする方への注意喚起看板の設置や並行路線への誘導看板の設置を行う。</p> 
啓発ツール	標識・看板  

○：既存施策の継続及び見直し      ●：新規施策

### 【危険な場所への注意喚起看板の設置計画のイメージ】



## ②啓発ボランティア活動

考え方：地域住民自らが啓発指導を行い、住民同士で自転車利用マナーの意識向上を図る啓発とする。

対 象 者	<input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車 <input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 一般市民 <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車    自動車・バス
実 施 内 容	<p>(放置自転車対策での項目と同内容)</p> <p>○自転車利用者に対する声かけ 路上駐輪をしようとしている人に対して、注意するとともに、駐輪場の場所と利用方法などを案内する。</p> <p>○放置自転車の整理 雑然と並べられた放置自転車を、きれいに整然と並べ直す。沿道の景観が少しでも改善できる。また、放置自転車の整理をしている近くでは、路上駐輪を心理的に防止する効果も期待できる。</p> <p>○駐輪場内の整理 より多く駐輪できるように、駐輪場内の自転車をきれいに並べなおす。収容台数かそれ以上駐輪できるようスペースを確保し、路上駐輪からの誘導を促す。</p> <p>●ボランティアの協力者の確保 ボランティアの参加意欲を高めるために、ポイント制により表彰を行うことや、取り組み状況を市報で紹介したり、団体名の看板を設置したりする。また、団体はイベント等に参加し、ボランティアの意識を高める。</p>
啓 発 ツ ー ル	ユニフォーム、駐輪場の場所と使い方の案内資料




出典：大阪市 HP

○：既存施策の継続及び見直し    ●：新規施策

### ③交通安全教室(学校、自治会、街頭)


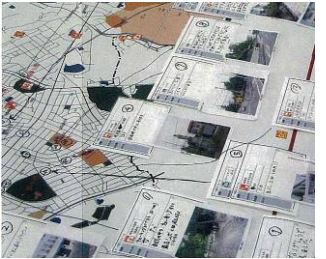

考え方：年代や属性に応じて、これまでの取り組みや、啓発内容が異なるため、各年代に応じたきめ細やかな啓発とする。

対 象 者	<input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車 <input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 一般市民 <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車 <input type="checkbox"/> 自動車・バス
実 施 内 容	<p>○保育園・幼稚園での活動（歩き方の啓発） 横断歩道を安全に渡る練習を行う。歩道を歩くときには、自転車が前や後ろ、横から走ってきてぶつかる危険があることを教える。</p> <p>○小学校での活動（低速自転車としての啓発） 道路標識の見方や自転車で歩道を走行するときのルールを学ぶ。自転車を安全に利用するために、自転車の点検や整備の仕方を学ぶ。自転車を利用する際には、交通ルールを守り、事故の危険性を知り、歩行者に配慮した走行をすることを、実践を通して学ぶ。</p> <p>○中学校での活動（中速自転車としての啓発） 交通ルールの再認識を行い、事故の危険性について事例を用いて認識を深める。身体障がい者の方からの話を聞くなど、弱者の立場に立った考え方ができるような指導を行う。</p> <p>○地域住民に対する活動（低速、中速、高速自転車すべての場合の啓発） 高齢者や子ども会において交通安全教室を開催し、交通ルールについて不足している知識を養う講習会を行う。交通事故の現状を知ってもらい、安全な自転車利用を促す場とする。</p>  <p>○街頭での活動（低速、中速、高速自転車すべての場合の啓発） 交通安全期間に街頭にて自転車の安全運転を呼びかける活動を行う。チラシやグッズの配布を合わせて行い、マナー・ルールの普及を図る。</p> <p>●ドライバーへの活動 事業者に対して、自動車の走行に関する自転車への配慮、ルールを周知し、自転車が優先であることを認識するよう指導する。</p> <p>※高校生、社会人への啓発に関しては、ワークショップによる啓発や参加・体験による啓発に記載</p>
啓 発 ツ ー ル	交通安全教育資料、交通模擬施設（信号、横断歩道など） 講師・指導員、交通安全チラシ、交通安全グッズ

○：既存施策の継続及び見直し      ●：新規施策

#### ④ワークショップの開催


考え方：市民から様々な属性の参加を募り、それぞれの立場から自転車について意見交換を行う中で、正しい走行ルール、駐輪マナーについて意識の向上を図る。

対象者	<input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車 <input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 一般市民 <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車    自動車・バス
実施内容	<p>●自転車走行環境の調査          走りやすい道、危険な道、歩行者専用道など、普段利用する走行ルート进行分类して、参加者同士で情報共有を行う。また、駐輪場の場所、自転車用品の販売店、修理ができる場所、事故の多い場所なども合わせてピックアップする。</p> <p>●様々な立場の人との意見交換          身体障がい者、高齢者など、交通弱者の方が普段感じていることを聞くことで、今後の自転車利用についての配慮を改めてもらう。また、商店街の店主や高校生、大学生、サラリーマン、主婦など様々な立場と目的で自転車を利用している人の利用方法、または迷惑を受けている人の意見・要望をまとめ、自転車利用に対するマナー意識の統一を図る。</p> <p>●ヒヤリハットマップによる情報提供など          調査や意見交換で出された意見などを地図上に落とし込み、啓発活動で利用できるマップの作成を行う。</p> <div style="text-align: right;">             出典：グリーンマップあいち HP       </div>
啓発ツール	<p>ヒヤリハットマップなど</p> <div style="text-align: center;">           出典：袖ヶ浦市 HP       </div>

○：既存施策の継続及び見直し    ●：新規施策

### ⑤各種イベントと合わせた啓発活動



考え方：自転車利用の楽しみを見つけ、健康の維持・向上、地球環境の保護への意識を高めるとともに、自転車利用マナーの意識向上を図る。

対 象 者	<input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車 <input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 一般市民 <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車 <input type="checkbox"/> 自動車・バス
実 施 内 容	<p>●地域のイベントと合わせた啓発活動          市が行うイベントや地域のイベント等の開催時に、「変り種自転車」の試乗などを行い、自転車に楽しみながら親しんでもらい、あわせて自転車のルールやマナーの啓発を行う。          また、子供が参加することで、一緒に参加する両親など大人にも啓発を行うことができる。</p>  <p>出典：ヨーロッパモビリティウィーク &amp; カーフリーデーHP</p> <p>●自転車利用の普及促進          普段は通勤・通学や買物など、日常生活圏のみでの自転車利用がほとんどなので、普段あまり走ることがないが、走って気持ちの良い道などをコース設定し、サイクリングツアーを実施する。          実施の際は多くの参加者を募り、みんなで走りやすいように交通規制をかけ、車道の一部を自転車優先にするなど、より走行しやすい環境を整える。自転車に乗ることの楽しさ、気持ち良さを実感してもらい、以後の利用を促進する。</p> <p>●環境への影響、健康維持の効果を実感          自転車で走った距離に応じて、車で走った際のCO<sub>2</sub>排出量を計算する。みんなでどのくらいのCO<sub>2</sub>排出抑制に効果があったかを実感する。また、消費カロリーなど健康面への効果も実感できるものとする。</p>
啓 発 ツ ー ル	変り種自転車、募集チラシ、CO <sub>2</sub> 計算シート、消費カロリー計算シート

○：既存施策の継続及び見直し    ●：新規施策

## ⑥公共施設や店舗にマナー向上のポスターを掲示

考え方：自転車利用マナーを認識していても行動できていないことから、自転車を利用する上で目に付く場所に、対象者にあった内容のポスターを掲示し、多くの人に見てもらおう啓発とする。

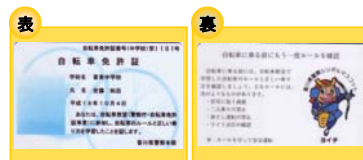
対象者	<input type="checkbox"/> 学生   <input type="checkbox"/> 高齢者   <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車   <input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦   <input type="checkbox"/> 一般市民   <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車   <input type="checkbox"/> 自動車・バス
実施内容	<p>●自転車利用マナー向上のポスター作成            ポスターのテーマとなる項目をいくつか設定し、テーマに沿った内容のポスターを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駐輪場を利用し、路上駐輪しないこと</li> <li>・自転車を大切に扱い、駐輪場や路上に乗り捨てないこと</li> <li>・商店街の中は自転車から降りて、自転車を押して歩くこと</li> <li>・歩道を走るときは、歩行者を優先させ、無理な運転をしないこと</li> <li>・信号を守り、交通ルールに従った運転をすること</li> </ul> <p>小・中・高校にポスター案を募集し、応募のあった中から選定する。</p> <p>●掲示場所            小・中・高校、大学等の各種学校と市役所、公共公益施設、駅などに掲示する。</p>
啓発ツール	<p>ポスター</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

○：既存施策の継続及び見直し      ●：新規施策

## ⑦自転車免許の交付

考え方：目標をもって自転車利用マナーを理解できるような啓発とする。自転車免許を保有することに対して、インセンティブを与えていく。

対象者	<input type="checkbox"/> 学生   <input type="checkbox"/> 高齢者   <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車 <input type="checkbox"/> 主婦   <input type="checkbox"/> 一般市民   <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車   歩行者 <span style="float: right;">自動車・バス</span>
実施内容	<p>●交通安全教室との連携          これまでの取り組みをより効果的にするために、交通安全教室と合わせて以下のような講習を実施する。</p> <p>●学科講習          道路標識や交通ルールなどを問う試験を実施する。また、自転車の正しい乗り方、点検・整備の仕方などの講習を受け、実技講習を受ける。</p> <p>●実技講習          学科講習の後、S字走行や後方確認、二段階右折などを交通模擬施設（仮設の専用コース）にて行う。信号での停止、歩行者のいるときの走行などに注意して実施する。</p> <p>●免許の発行          講習を全て受け、最後のテストに合格すると、自転車免許証を受け取ることができる。一人一人が免許を携帯することで、交通安全の意識を持ち続けてもらう。</p> <p>●免許を持つメリットの創出          自転車免許を保有者に対して、駐輪場を優先的に利用できるなどのインセンティブを与えることで、自転車免許取得を促し自転車利用マナーを理解できるしくみをつくる。</p>
啓発ツール	交通安全教育資料 交通模擬施設（信号、横断歩道など） 講師・指導員 自転車免許証



○：既存施策の継続及び見直し      ●：新規施策

### ⑧歩道上や駐輪場でのやさしい声かけ

考え方：注意、指導、警告といったマイナスイメージではなく、自転車の快適性、利便性、エコなどプラスイメージを全面的にアピールし、自転車利用のイメージアップを図る。

対象者	<input type="checkbox"/> 学生   <input type="checkbox"/> 高齢者   <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車   <input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦   <input type="checkbox"/> 一般市民   <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車   自動車・バス
実施内容	<p>○啓発ボランティア活動と平行して実施 啓発指導ボランティアが活動を行う中で、利用者に対して路上駐輪の禁止や駐輪場の利用、走行マナーの呼びかけなどを行う。</p> <p>○店の従業員からの声かけ 買物目的の利用者は、目的地のより近い場所に駐輪する傾向が強いため、商業施設や商店街において、従業員や店主から客に対して駐輪場の利用や走行マナーを呼びかける。</p> <p>●学校の課外活動として実施 高校生の自転車利用マナーに問題が多いため、高校生や中学生自らが正しい自転車利用を訴える活動を街頭にて行う。</p>
啓発ツール	正しい自転車利用の案内資料



○：既存施策の継続及び見直し ●：新規施策

### ⑨ツーロックキャンペーン

考え方：自転車盗難防止のため、2つの鍵を付けることを普及させるとともに、学生が配布することで、住民同士の意識向上を図る。

対象者	<input type="checkbox"/> 学生   <input type="checkbox"/> 高齢者   <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車   歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦   <input type="checkbox"/> 一般市民   <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車   自動車・バス
実施内容	<p>○自転車盗難防止のためカギは2つ 新潟市では、盗難被害の経験のある人が約20%いる。今後、被害が広まらないためにも自転車には、カギは2つ付けることを習慣づける。</p> <p>○高校や街頭での配布 防犯意識を持ってもらうため、市から各学校にワイヤー錠を配布する。また、街頭でもツーロックの習慣を呼びかけながら、ワイヤー錠を配布する。</p> <p>●中学校への配布 高校に入る前の段階から、ツーロックを習慣にしてもらうために、中学校に配布する。</p>
啓発ツール	ワイヤー錠



○：既存施策の継続及び見直し ●：新規施策



## ⑩マナーコンクール

考え方：優秀者に対して表彰を行うことで、参加意欲を高め、自転車利用マナーの意識向上を図る。

対象者	<input type="checkbox"/> 学生 主婦	<input type="checkbox"/> 高齢者 一般市民	<input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車 ロードタイプの自転車	<input type="checkbox"/> 歩行者 自動車・バス
実施内容	<p>●高校生による自転車利用マナーの向上 高校生は、自転車利用が多いことから、ルールやマナーの周知が必要のため、コンクールを開催し、互いにマナーの良さをアピールし、高めあうことでマナーの向上を図る。</p> <p>●学校ごとの独自の取組 自転車の安全運転、利用マナーについて、各高校が独自に考えた取組を実行し、市などが内容と効果を評価する。</p> <p>●市などが行動を評価 ルール違反者に出す指導警告には減点を、積極的に交通安全・マナーの向上策を行った際には加点をする。総合点を市内の高校で比較し、優秀校を表彰する。</p>			
啓発ツール	自転車利用評価シート			

○：既存施策の継続及び見直し ●：新規施策

## ⑪小中学生による放置自転車整理体験

考え方：住民自らが自転車対策活動に参加することで、自転車利用マナーの意識向上を図る。

対象者	<input type="checkbox"/> 学生 主婦	<input type="checkbox"/> 高齢者 一般市民	<input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車 ロードタイプの自転車	<input type="checkbox"/> 歩行者 自動車・バス
実施内容	<p>●放置自転車の迷惑さを実感 小中学生が放置自転車の整理を体験することで、作業の大変さ、放置自転車の迷惑さを実感してもらい、以後の自転車マナーについて自覚を持ってもらう。</p> <p>●啓発指導ボランティアと一緒に作業 日ごろ活動を行っている啓発指導ボランティアの作業と一緒に参加することとする。ボランティアの方から日ごろ感じている自転車利用マナーの実態について、作業を通して話を聞くことで、より意識の向上を図る。</p>			
啓発ツール	ワイヤー錠			




出典：豊島区HP

○：既存施策の継続及び見直し ●：新規施策

## ⑫シンポジウム


考え方：自転車利用についての実態や交通マナーについての講習会を行い、活動に参加することで、自転車利用マナーの意識向上を図る。

対象者	<input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車 <input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 一般市民 <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車 <input type="checkbox"/> 自動車・バス
実施内容	<p>●自転車政策に関する話題</p> <p>市の自転車問題の現状や取組状況、子どもや大人、高齢者の事故の現実などを報告する。また、駐輪場や自転車道の整備、サインの設置、放置禁止区域の設定、自転車等放置防止条例や駐輪場の附置義務に関する条例の改正などの計画や、将来の展望なども合わせて発表する。</p> <p>●他都市の事例紹介</p> <p>自転車政策で珍しい取組を行っている都市の先進事例について説明を聞き、新潟市において取り入れることができる取り組みを市民と一緒に考える。</p> <div style="text-align: right;">  <p>出典：台東区 HP</p> </div>
啓発ツール	他都市事例、講師

○：既存施策の継続及び見直し ●：新規施策

## ⑬仮自転車専用道の設置

考え方：自転車道設置等の実験的な取り組みを行い、利用者に体験してもらうことで、自転車利用マナーの意識向上を図る。

対象者	<input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車 <input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 一般市民 <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車 <input type="checkbox"/> 自動車・バス
実施内容	<p>○歩行者と自転車の分離</p> <p>歩道上で自転車と歩行者が混在し、互いにぶつかる危険性の高い場所を選び、歩行者と自転車の空間を分離することで事故の危険を防ぎ、安心・安全な歩行者空間と快適な自転車走行空間の確保を図る。</p> <p>将来の自転車専用道の整備に向け、空間の分離方法や空間構成などは数パターンを試験的に採用し、利用実態について観察またはアンケート・ヒアリング等で意見を採取する。</p> <div style="text-align: right;">  </div>
啓発ツール	コーン、パー

○：既存施策の継続及び見直し ●：新規施策

#### ⑭ ノーマイカーデー、サイクル&ライド

考え方：通勤時において、自動車から自転車や公共交通の環境にやさしい交通手段への転換を促すとともに、自転車利用マナー・ルールの意識向上を図る。

対 象 者	学生 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車 <input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 一般市民 <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車 <input type="checkbox"/> 自動車・バス <input type="checkbox"/>
実 施 内 容	○ノーマイカーデーの実施 実施期間中は、マイカー通勤を自粛し、自転車や公共交通機関などで通勤するように呼びかけを行うとともに、自転車利用マナー・ルールの意識向上を図る。  ●サイクル&ライド 最寄りの駅やバス停まで自転車で移動し、そこから公共交通機関を利用し目的地へ向かう、サイクル&ライドを促進するとともに、自転車利用マナー・ルールの意識向上を図る。
啓発ツール	チラシ、その他の広報（新聞、ラジオなど）

○：既存施策の継続及び見直し      ●：新規施策

#### ⑮ 自転車通勤奨励制度

考え方：通勤時の自転車利用を促進するために、企業側が実施する自転車通勤を奨励する。

対 象 者	学生 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> ゆっくり走る自転車 <input type="checkbox"/> 歩行者 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 一般市民 <input type="checkbox"/> ロードタイプの自転車 <input type="checkbox"/> 自動車・バス <input type="checkbox"/>
実 施 内 容	●マイカー通勤から自転車通勤へ 企業にとって、マイカー通勤には駐車場の確保や排気ガスや騒音による近隣からの苦情など、抱える問題も多い。また、通勤時の交通渋滞も都市交通の大きな問題の一つとなっている。こういった問題に対し、企業側が自転車通勤を奨励することで解決につながり、またエコ企業としてイメージアップになる。  ●自転車通勤手当 自転車通勤をする社員にはエコポイントを付与し、マイカー通勤のガソリン相当額を手当てとして支払うなど、自転車通勤へのお得感を感じさせるような制度を紹介し、採用してもらう。  ●補助制度の導入 自宅から会社に自転車通勤を行うために、自転車を購入した場合に、購入費の一部を負担する補助制度や自転車通勤者のための駐輪場整備に関する補助制度の導入を図る。主婦の自転車利用や高齢者の自転車利用に配慮して、3人乗りの自転車や電動アシスト自転車等の購入に対する補助も検討する。
啓 発 ツ ー ル	チラシ

○：既存施策の継続及び見直し      ●：新規施策

## ⑩レンタサイクル

考え方：自転車利用促進及び通勤・通学や観光客へ手軽な交通手段を提供するため、レンタサイクルを展開する。

対 象 者	<input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 高齢者 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> 一般市民	ゆっくり走る自転車 ロードタイプの自転車	歩行者 自動車・バス
実 施 内 容	<p>○実施方法</p> <p>現在、市内の一部の地区では、観光やレジャーを目的とした小規模なレンタサイクルを行っている。</p> <p>市内の観光めぐりや市内でのちょっとした移動の際に、気軽に利用できるレンタサイクルを利用することにより、新潟の魅力を感じてもらうことができる。また、通勤、通学を目的とした視点も取り入れ、レンタサイクルの充実を図り、市内をレンタサイクルが走るPR効果により、自転車利用促進が期待できる。</p> <p>また、現在、軽快車のほか、リサイクル自転車やスポーツ車などの貸し出しが行われているが、利用者の属性や地形を考慮し、子ども乗せ3人乗り自転車、電動アシスト自転車等の車種導入について検討を行う。</p> <p>○実施場所</p> <p>現在、観光地の最寄り駅周辺や観光地内を中心に、実施箇所ごとに1ステーションでの貸し出しを行っている。今後、既存のステーションを中心に利便性向上を図りながら、サイクルポートがない新潟駅南口にも、通勤、通学の視点から、プラカの地下通路、その他郵便局、ホテル、商業施設、公園など、利用者の多い施設にポートを検討する。</p>		
啓 発 ツ ー ル	チラシ		



○：既存施策の継続及び見直し    ●：新規施策